

研究又は活動のテーマ	地震災害と災害復旧に関する学習
団体名	山梨県立青洲高等学校
代表申請者	宮坂 雄太

(目的) 14年前に発生した東日本大震災を契機に、日本列島周辺では地震活動が活発になり、熊本地震や能登半島地震など甚大な被害を被ってきた。今後も、首都直下地震や南海トラフ地震など、近いうちに私たちの生活拠点で大きな地震が発生することが現実味を帯びてきている状況の中、『土木工学』を学び社会に出ていく生徒たちに、ニュース映像や画像だけでなく、地震の被害の規模や生命の危機について、現地へ赴き体験することで実感を通して学ばせる。また、復興・復旧に向けて、命を守るインフラを造っていく使命と、政府の国土強靱化計画についても学習し、土木技術者の必要性や有用性を再認識させ、建設業への意識高揚につなげる。

(概要) 東日本大震災において、特に甚大な被害を受けた宮城県石巻市、気仙沼市の震災遺構を訪れ、語り部のガイドを受けながら震災および津波の恐ろしさを学び、被災地も震災前は被災地ではなかった現実を知る中で、普通に過ごしている日常がいかに儚く脆いものかを体感することにより考える機会とした。また、移動中の車内から、河川や海岸沿いに造られたスーパー堤防やJR気仙沼線の代替復旧として市民の移動手段となったBRTを紹介し、インフラ整備による命と財産を守る取り組みを見学することにより、震災からの復興に関しても重要になる土木構造物を造っていく土木技術者の必要性や使命について学んだ。

①石巻市の石巻南浜津波復興記念公園において、『MEET門脇』の語り部と合流。南浜町の震災前・後の街並みの変化や、高盛土道路の概要、居住可能地域と非居住地域の住み分け、津波避難ビルの概要、震災遺構の門脇小学校の被災状況、避難における心構え等を学んだ。

②大川小学校において、大川震災伝承館の語り部と合流。伝承館の展示見学、釜谷地区の津波の被害や大川小学校の被災状況、大川小学校の避難計画と避難行動の在り方、想定外の出来事に対する対処法について学んだ。

③南三陸防災庁舎跡において、旧庁舎前で実際の津波到達高さを実感するとともに、復興祈念公園周辺の防潮堤、河川堤防の嵩上げの様子を学んだ。

④気仙沼市までの移動中に、スーパー堤防や気仙沼線BRTを車中より見学し、生活再建のためのインフラ整備について学んだ。

⑤気仙沼市東日本震災遺構伝承館において、港湾土木設計者の語り部と合流。震災直後や津波到達時の映像視聴、語り部と共に旧向洋高校内部の見学、津波到達高さ、語り部の避難指定した場所の惨状、防潮堤の在り方を学んだ。